

令和2年度 県立家島高等学校 学校評価

分野Ⅰ 学校全体・組織・運営 Ⅱ 学習指導 Ⅲ 生徒指導 Ⅳ 進路指導 Ⅴ 地域連携・PTA)
 評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

分野	分野	評価項目・達成目標	成果指標(具体的な達成目標)	評価	振り返り・課題	改善策	学校関係者評価
総務	I	年間行事を精選し、地域の教育資源の有効活用を図り、特色ある学校づくりに努める。	行事検討委員会と連携し、学校行事を改善して、生徒の満足度を高める。	B	コロナ禍で例年通りの行事運営が難しくなったが、感染対策の徹底や感染リスクを減らす工夫をした上で、できるだけ中止をせずに例年とほぼ変わらず行事をこなすことができた。	引き続きコロナ情勢に対する配慮が必要となるが、できるだけ例年通りに行事をこなしていけるよう、万全な対策を行う。	
	I, V	防災避難訓練等を実施し、命を大切に防災教育を推進し、地域に貢献できる人間の育成を目指す。	防災避難訓練や命を大切に防災教育を実施し、地域に貢献できる人間の育成を目指す。	A	感染対策・規模縮小を行った上で、例年通り地域合同避難訓練を実施した。家島消防の協力のもと、消火器訓練・搬送訓練などを取り入れた体験的な訓練を実施することができた。	引き続き家島消防の協力を得ながら、昨年度の実施内容を土台に、あらたな訓練を試みたい。	
	V	地域の関係機関をはじめ、PTA・同窓会・地域連携支援協議会等との連携を強化し、魅力ある学校づくりを推進する。	学校行事をPTAや地域と連携して運営するとともに、地域行事への生徒・教職員・保護者の積極的参加を促す。	C	コロナ禍で多くの地域行事が中止になったため、行事を通じた地域とのつながりは不十分であった。	幼小中高地域合同避難訓練で、これまで参加してこなかった真浦地区のご老人会へ参加を呼びかけなど、今年度実施可能な行事で、地域の住民に参加いただける機会を増やす。	
教務	I	生徒の実情や希望、学力に合うように教育課程を改善する。	生徒の学力や希望進路にあった教育課程、少人数授業の編成を考える。	A	国語総合古典、数学Ⅰ、A。英語表現Ⅰでは、習熟度別授業を展開して個々の生徒の実態に即した指導を行った。	引き続き第1学年の国語、数学、英語では習熟度別の授業を展開していく。	
	II	進学、就職それぞれ進路目標に応じた確かな学力を身につけさせるために、類型ごとに授業内容を見直し、	学校全体で各学期ごとの成績不振科目数0を目指し、延べ数で10個未満にする。	C	いずれの学期でも達成できていない。学期中に成績不振科目保有者が出ないような指導・支援を遂行することが必要である。	提出物の状況が悪い生徒への声掛けや、居残りをさせて継続的な指導を行う。	
	II, III	学年・生徒指導部と連携しながら、生活習慣の見直しを図り、遅刻・早退・欠席を減少させる。	遅刻・早退・欠席の数を、それぞれ月ごとに延べ数で20回以内に減らす。	B	特定の生徒が延べ数を増やしている。体調管理や時間管理の大切さを説くことが必要である。	保護者と密に連携を取り、保健的な観点からも状況改善を図っていく。	
	II, IV	進路指導部と連携しながら、長期休業中の補習および模擬試験を計画的に実施する。	補習と模擬試験への参加者を学年の半数以上にする。	B	夏季休業中には希望制補習を行った。	今後も進学希望者を対象に夏季休業中に補習を行う。	
生徒指導	I	いじめ認知を強化し、生活環境の正常化を図る。	年間11回の「生活実態調査」を実施するとともに、担任と協力して生活環境や人間関係を整える。	A	タブレットを使用してアンケートを実施することができた。「心のサポート委員会」「生活実態調査結果共有会議」等、CとCとの連携について検討していく必要がある。	令和2年度は生活実態調査を学校でおこなった。次年度は家庭での実施も考えたい。また、各学年と協議し、教員側も「スカン」を上手に活用したい。	
	I, III	交通安全に係る規範意識を高める指導をする。	年間1回以上の「交通安全講話」を実施する。	B	外部から講師を招いて講習を実施した。しかし、数件交通事故が発生した。	保健体育科の保健の授業で交通安全についてを春におこなう。	
	I, IV	「挨拶、返事、報告、連絡、相談、お礼、お詫び」を実践する。	校内掲示物と指導頻度を増やす取り組みを行い、習慣化させることを目指す。	C	ポスター掲示や整理を行った。来年度は掲示物を生徒の委員会活動等で作成したい。	生徒会や委員会活動を積極的に活用したい。	
	I, III	地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	募金活動と地域清掃を合わせて5回以上実施し、「奉仕意欲」「自己有用感」「自尊感情」「ふるさと意識」等の高揚を図り、地域を担うリーダーシップを養成する。	B	コロナの影響もあり、全県でのボランティア活動が少なかつたが、島内での清掃活動やボランティア活動できた。来年度は数を増やしたい。	例年参加していた姫路市内でのボランティア活動や校内全体で家島に貢献できる活動を展開したい。	・コロナ禍で行事が減るのはやむを得ないが、感染対策をきちんととり、できるだけ行事を行うおとしてほしい。生徒も地域住民も喜んでほしい。
進路指導	I, IV	3学年全員の希望進路を実現する。	進路未決定者を0人にする。	A	進学に関しては、個別に学習指導を行い、指定校推薦だけに頼らず、4名の生徒が4年制大学へ進学することができた。就職に関しては、企業の新規開拓に努め、コロナの影響を受けることなく、希望進路へ就職することができた。	生徒の進路が決まっていれば、早い段階で大学、企業に訪問し、指定校を獲得する必要がある。特に、就職に関しては求人数が激減しており、早期対策が求められる。夏季休業中の進路指導は引き続き、全職員で行いたい。	・地域清掃や募金活動などを行っている姿を、地域住民は好ましく見ている。今後も継続的に地域に出て活躍して頂きたい。
	I, IV	模擬試験を活用して生徒の学習レベルを把握し、生徒一人ひとりに合った進路指導の充実を図る。	進路行事は年間3回以上、進路面談は定期的に実施し、2年生2学期頃には進路希望を決定できるようにする。	A	1学期は行事を開催することができなかったが、夏季補習、12月の進路フェスタ、3月の進路講演会だけでなく、進路指導部による進路LHR、3年生との座談会を開催し、進路実現に向けて、充実した取り組みを行うことができた。	夏季補習は生徒から好評であった。2学期以降は充実した進路行事を行うことができた。行事に関しては引き続き『(株)さんぼう』様を仲介し、充実した進路ガイダンスや講演会を行いたい。	
	I, IV	生徒が主体的に進路選択できるようにするための、3年間を見通した進路指導計画を確立して実行する。	生徒自ら主体的に進路学習ができるよう、「進路指導規程」及び「進路の手引き」を作成する。	A	規程の見直し、教員用の手引きを作成し、進路指導に役立てることができた。	規程と手引きの見直しは、常に行いたい。特に推薦資料の点数化(検定や課外活動)は、現状に合ったものに変更する必要がある。	・小規模校だからこそできる、ここに応じた教育を目指していただきたい。
保健	I	自身の健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることができる心と体を育てる。	個々に応じた指導や学年・他部署・専門職との連携を密にし、毎回同様の理由での来室や頻回来室、継続的な来室を減少させる。	B	今年度は、新たに保健室入室カードを作成し、保健室の利用にあたってのふり分けや過去の来室状況を振り、視覚的に生活習慣を振り返ることができる環境を設定した。	保健室入室カードの運用を開始したが、主体的に健康な生活には結びつけることができていないと感じる。今後も継続して支援や指導にあたっていく。	・あいさつがきちんとできる生徒が増えたと感じる。
	I	学校安全に対する意識を高め、学校事故防止と緊急時対応の充実を図る。	年度初めの救急体制の周知徹底と、職員・生徒対象の救急講習会の実施、学期ごとに安全点検を行い、安全管理・安全教育につなげる。	B	安全点検では、学期ごとに担当者や点検場所の組み合わせを変え、点検の偏りが生まれないように工夫して行った。しかし、今年度は学期ごとに「学校の安全に関する調査」を行うことができなかった。	「学校の安全に関する調査」を学期ごとに実施できるように、早めに無理のない計画を立てたい。	・いじめられている生徒・悩みを抱えている生徒がいたら、すぐに気づいてサポートできる体制ができていることは評価できる。
図書(教務部)	I	図書委員長を中心に、図書委員全員で図書室を主体的に運営する。	図書の貸し出しと図書便り(BOOKMARK)の月1回の発行を図書委員が行う。	C	図書委員が主体的に運営をしていたが、図書便りの発行が計画通りにいかなかった。	運営は問題なかったが、図書日より月に1度だと生徒の負担が大きいため、学期に1度に変更する。	
	I	図書室の利用を活性化させる。	図書室の利用生徒数を昨年度より増やし、年間貸出総冊数が100冊以上になるようにする。	A	利用者数727人、貸出数109冊と昨年度以上の数字となった。	利用者、貸出数は多いが、同じ生徒の利用が目立つので、他の生徒も利用してもらえよう環境を作っていく。	
	I	図書委員全員で書架の整理を行い、利用しやすい図書室にする。	書架の整理を完了させる。加えて読書以外にも活用できる環境を整える。「放課後のクラブ活動のミーティング」など	A	書架の整理をし、自習、ミーティング、インターネットなど様々な目的で活用できた。	生徒の要望も取り入れて、生徒が利用しやすい環境を整える。	
人権	I	生徒の人権尊重の意識を高める。	人権LHRを各学年で年間を通じて3回実施する。	C	校内で映画「聲の形」を上映。鑑賞後、ワークシートへの記入などを通じて、人権について考える機会をもった。年間ではこの1回にとどまった。	3年生の卒業後に実施したため、学校全体で取り組んだとは言えなかった。また、年間3回の目標を達成できなかった。次年度は早めに計画を立てたい。	
	I	生徒の秘密や人権に配慮した教育相談を実施する。	学年は生徒と学期に1回以上面談し、学校全体ではキャンパスカウンセラーと連携した教育相談を月に1回行う。	A	キャンパスカウンセラーの先生と連携し、「生活実態調査」の集計の後に毎月全職員で共有会議を行い、真摯に取り組むことができた。	引き続きキャンパスカウンセラーとの緊密な連携や、「生活実態調査」結果の迅速な共有・いじめの芽をつむ迅速な対策実施を心がけたい。	
	I	校外の研修会に参加し、また校内研修会を実施することで教職員の人権意識を高める。	校外で行われる研修会に参加し、校内では職員対象の研修会を1回以上実施する。	A	コロナ禍の影響で校外研修会への参加は1回にとどまったが、非常に有意義な内容であった。校内でも同回教員対象の研修会を開催することができ、カウンセリングマインドについて学ぶことができた。	従来より視野を広げ、LGBTなど「多様な性のあり方」に関する研修への参加を検討したい。	
	I, III	自分の居場所があって安心できるクラス、皆で協力し、支え合って成長できるクラスをつくる。	互いの理解を促進するため、「自己開示」と「他者理解」をねらいとした少人数グループでの話し合いを定期的に実施する。また、定期的にクラスで話し合いを持つ(LHR等)。	A	1年生は臨時休校が続きクラスの合流が例年より遅かったため、少人数グループでの話し合いを4回、クラスでの話し合いを3回実施。また個人面談を繰り返して教員もクラスの状況をよく理解した。結果、一人ひとりがお互いをよく理解し認め合うようなクラス運営を行うことができた。	「少人数グループでの話し合い」「クラスでの話し合い」の有効性を確認できた。次年度も継続し、互いの理解を深めたい。	
学年	I, III	他者へ思いやりのある振る舞いを行う。	他者への高い人権意識を持ち、安心安全な環境づくりを作る。	A	折に触れて、自らの行動や言動について振り返りをさせていた。それにより、他者へ配慮する意識を高めることができた。	引き続き、自らの行動や言動が他者に与える影響を常に意識するよう、折に触れて投げかけ続けたい。	
	II	基礎学力の定着を徹底する。	週2回の「朝活」を通じて、漢字や語彙の知識を豊かにしたり、一般常識の知識レベルの向上を図る。	A	新聞記事を題材に漢字や語彙力の向上を図ることができた。また、一般常識の知識レベルの向上については、模試を一年塚として継続的な学習ができた。	朝活が習慣として生徒の間に定着した。内容を再検討した上で、次年度も継続したい。	
	IV	進路への意識を高め、進路実現に向けて自らが行動する主体を育てる。	一人ひとりが、進路実現に向けてやるべきことを明確に把握、行動できるようにし、進路未決定者を0にする。	A	進路選択や受験計画を主体的に考えさせ、自分で進路を切り拓く努力を行うことができた。	引き続き、自ら進路を切り開く努力ができるよう、主体的に進路選択や受験計画を考えさせたい。	